ふるさとの医療を担う!

2023年度 広島大学医学部医学科 ふるさと枠のご案内







地域医療を担う医師の育成について



広島大学長 越智 光夫

今日、我が国は、少子高齢化の急速な進展、総人口の減少など、大きな転換期を迎えています。厳しい社会環境の中で、広島県においては、特に中山間地域の医療を担う医師と特定の診療科の医師不足が深刻です。

こうした中、平成 20 年には「"みんなで守ろう広島県の医療" 緊急アピール」が発表され、平成 21 年から広島大学と広島県が連携して、将来広島県での医療を担う人材を育てるため「ふるさと枠入試」を開始いたしました。

幸いにも平成 21 年に5名、平成 22 年から平成 24 年には各年 15名、平成 25 年以降には各年 18 名と順調に優秀な学生が入学し、一般学生とともに学業に励みながら、充実したキャンパスライフを送っています。これまでに230 名の方が入学し、そのうち 121 名が既に卒業され、現在、県内の公的医療機関等で臨床研修や実地臨床に励んでいます。

このふるさと枠で「診療科の選択の自由がない」とか「先進的な医療の勉強ができない」といったことはまったくありません。「総合医」や「専門医」になるのも基本的には自由です。広島の医療に強い関心を持ち、広島県内で医療

人として活躍したい、医療を通じて社会貢献を果たしたいという方を広島大学は全力で応援します。 どうぞ奮ってご応募いただきますようお願いいたします。

ふるさと枠をめざす皆さんへ



広島県知事 湯﨑 英彦

広島県では、総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」を策定し、「全 ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地 域で安心して暮らし続けることができる広島県の実現」を目指して取組を進め ています。

山間部や島嶼部等からなる中山間地域が広い本県では、過疎化や少子高齢化が進む中で、地域の医療をどのように守り・支えていくかが大きな課題となっています。

そうした中、県内の地域医療を支える医師の育成を目的とする「ふるさと枠」制度によって、これまでに 121 名が卒業し、現在、臨床研修を修了した 84 名が勤務を開始しております。そのうち 32 名が医師不足に悩む中山間地域の医療現場で、また 13 名が医師不足の特に著しい診療科で活躍するなど、県内地域医療の現場において大きな役割を担う存在となっています。

また、本県では、地域医療体制を確保するため、広島大学に「地域医療システム学講座」を設置し、地域医療を学ぶ教育活動や、中山間地域で勤務する医

師のキャリア形成への助言や支援を行うなど、地域医療を担う医師の育成に精力的に取り組んでいます。

大学での学びはもとより、この制度を通じて得られる多くの出会いや経験が、将来、県内の地域医療を支える糧となることを、心から期待しています。

是非、みなさんも、高い志と熱い想いを持って「ふるさと枠」を目指していただき、想いを共にする仲間とともに、本県の地域医療の活性化を担う人材として活躍されることを願っています。

2009年の制度開始から現在まで、**121名**の卒業生を輩出しています 各学年**18名**の学生が在籍中です

2015年~2022年累積ふるさと枠医師国家試験合格率は98.4%です (広島大学医学部医学科は88.8%です)

卒業後は、毎年同窓会で絆を深めます

「広島の地域医療を支えたい」という想いを、 ふるさと枠でより確かな形にしませんか



令和4年度は、広島大学医学部ふるさと枠を卒業し初期臨床研修を修了した若手医師84名が、市立三次中央病院、安芸太田病院、庄原赤十字病院等の県内各地の医療機関に着任し、地域医療を支える大きな力となっています。広島大学のふるさと枠の学生は、医療のみならずあらゆることに対してモティベーションが高く成績も優秀で、クラブ等の課外活動でも活躍しているのが特徴です。広島大学医学部では、広島県と協力し、ふるさと枠の学生が豊かな人間性や地域へ愛情を育み、さらに医師としての確かな実力を養えるように教育を行っています。また、ふるさと枠出身の医師が、将来、「総合診療医」を目指す場合でも、あるいはいずれかの診療科の「専門医」を目指すいずれの場合でも十分な研修ができるよう医学部全体で配慮をしています。

広島県の医療を良くしようという気概に溢れるふるさと枠出身の医師が、今後の広島県の医療の未来を築いてゆくことを願っています。

広島大学医学部長 粟井 和夫



広島大学医学部ふるさと枠は、県内中山間地域等の医療を守るため、広島県と広島大学が一体となって、本県の地域医療を担い・支えたいという志を持った医師を育てていく制度です。入学者が卒業するまでの間に貸与を受ける奨学金の原資は、県民の皆様から託された税金で賄われており、医師確保が困難な地域から大きな期待が寄せられています。

地域医療の現場において、医師は診療を行うのみならず、医療・福祉・介護等の 多職種の関係者と相互に連携・協力しながら住民の生活全般を支えていくという大 きな役割が期待されています。

県としても、熱意や希望をもって地域医療を志す皆さんが安心して活躍できるよう、しっかりと切れ目ない支援を行っていきます。本県の目指す姿である「全ての県民が、質の高い医療・介護サービスを受けることができ、住み慣れた地域で安心

して暮らし続けることができる広島県」を一緒に実現していきましょう。

広島県健康福祉局長 木下 栄作

ふるさと枠の受験を検討している方を対象としたセミナーを実施します!

広島大学医学部および広島県は、県内の地域医療およびふるさと枠制度について理解を 深めることができる「広島県地域医療セミナー」を開催しています。

ふるさと枠の受験を検討している高校生・高卒生の皆さまにこのセミナーへの参加を お勧めします。

今年度の**開催日は 2022 年 7 月 23 日 (土)、申込締め切りは 6 月 30 日 (木)** です。 2023 年度以降も毎年実施する予定です。詳細は以下のサイトをご覧ください。 (https://cbms.hiroshima-u.ac.jp/Seminar_information.html)

広島県内各地で活躍中のふるさと枠医師からのメッセージ



広島大学病院 循環器内科 大澤文乃 (1期生 2015年卒)

現在は広島大学病院で勤務をしています。これまでに、市中病院や中山間地域の病院で勤務をし、循環器内科医としての経験だけでなく総合内科医として地域医療も経験しました。両方の経験が出来るのも、ふるさと枠の醍醐味かもしれません。幅広く経験をしたい方や地域医療が好きな方など、ぜひ熱意のある学生に受験してほしいと思います。



公立世羅中央病院 外科 唐口望実 (1期生 2015年卒)

私は、入学当初は全身を総合的に診断・治療できる医師像に憧れました。卒業後、実際に医療現場では一人で全てをすることの難しさを改めて実感しました。どの診療科に進んだとしても周囲のスタッフとの連携が必要となります。中山間地域の病院では特に顕著です。学生の時にふるさと枠の実習等をすることでモチベーションを保ち、日々の勉強で知識を得て、いろいろな人の力を借りて地域医療を継続していきます。都市部に比べて医療のレベルはやはり限られますが、そういった環境の中で多職種連携と更新される医学知識をもとに質の高い医療を提供することを常に考えることは非常にやりがいを感じます。



安芸太田病院 消化器内科 服部彩佳 (2期生 2016年卒)

私は消化器内科を専攻し、庄原赤十字病院で後期研修、大学病院を1年経て、今年度からは安芸太田病院で同じふるさと生や、研修を共にした自治医科大学の先生たちと働いています。中山間地域での幅広い経験は将来大きな糧となることは間違いなく、その経験を気の知れた仲間とできることは嬉しいことだと感じています。ふるさと生であるからには、義務がありますのでやはり多少の制限はありますが、「できないこと」はありません。各診療科でもふるさと生のキャリアプランに対しての理解が進んできており、一人ひとりに合わせて柔軟に対応してもらえます。皆さんもいつか、一緒に働いてみませんか?



広島大学病院 病理診断科 神原貴大 (2期生 2016年卒)

ふるさと枠では広島県の医療への理解を、地域医療を中心に広い視点で深めることができます。自分の将来像を具体的に思い描きやすいため、医師として広島の医療に関わりたいけれど思いばかり先行して不安だ、という方にこそお勧めです。私は講義や実習の経験も踏まえ、中山間地域同様に医師不足が続き、知事指定診療科となっている病理診断科の医師として県の医療を支える道を選びました。病理診断科では患者さんの診療と密接に関係する病理診断や、病気の本質と向き合う研究、あるいは病理解剖をおこなっており、興味の尽きない領域であると私は実感しています。医師としてどのように広島と関わりたいか、ふるさと枠でじっくり考えてみませんか?同志として働ける日を楽しみにしています。



公立世羅中央病院 リハビリテーション科 片平健人 (2期生 2016年卒)

中山間地での勤務は今年で4年目になります。患者さんの数はやや少ないですが、その分自分の領域を少し広げる形で広く、またより集中して深く診療経験を積む事が出来、昨年専門医も取得しました。リハビリテーション科は治る可能性のある疾患・障害はもちろん、治すことが難しい障害にも治療の提案ができ、中山間地はもちろん高齢化の進む日本全体としてみても需要が大きい診療科で、ふるさと枠卒の先生も多く専攻しています。疾患に加え、患者さんの考え方・生活・生きがいなどを考慮して医療を行いたい、全人的な視点を持って協働したいと思って下さる方達の受験を心待ちにしています。



広島市民病院 小児科 今岡亜理紗 (4期生 2018年卒)

私は広島県の中でも最も多くの無医地区を抱える庄原市で生まれ育ちました。大学進学を機に故郷を離れるまでの間、医師不足による診療科の休止や医療機関の閉鎖は常に身近な問題でした。そのような中、地域医療に携わりたいという決意をもった仲間と出会うことが出来たことは、大変心強いことでした。すでに多くのふるさと枠の医師が地域で活躍する姿を見ると僻地出身者としては感謝の思いもあり、私自身もそれに続けるように日々の診療に取り組んでいきたいと思います。



市立三次中央病院 産婦人科 大谷麻由 (5期生 2019年卒)

皆様こんにちは。私は現在、市立三次中央病院で産婦人科医として勤務しています。産婦人科は知事指定診療科となり、義務年限期間中も産婦人科医として働くことができます。一般枠の方とほぼ同様のキャリアプランで、専門医取得に必要な症例も揃っており、安心して毎日多くの事を学ばせていただきながら日々の診療をしています。プライベートでも、コロナ渦で遠出はできませんが、SNSで情報取集しつつ三次市内の紫陽花の素敵な神社に行ってみたりしています。仕事も学びもプライベートも充実させながら、一緒に地域医療を支えてみませんか?



広島大学病院 初期研修医 宮重直弥 (7期生 2021年卒)

自分が医師としてやりがいを感じるのは、患者さんと地域の話題で盛り上がり上手にコミュニケーションが取れたときです。観光地や特産物を頭に入れておくと良いかもしれません。実際に医師として働いてみると、ふるさと枠出身の先輩方の人数の多さに驚きます。一足先に働いている先輩方の意見を参考にしながら、自分がこの先歩むキャリアを想像しながら働くのも楽しいものです。広島県の医療を支えるべく、ともに頑張っていきましょう。

知事の指定する中山間地病院(4年間勤務)

※県内の公立診療所も知事の指定する医療機関に含まれます。



THE REAL PROPERTY OF THE PARTY OF THE PARTY

西城市民病院

庄原赤十字病障

庄原赤十字病院

市立三次中央病院



安芸太田病院



JA吉田総合病院



公立みつぎ総合病院

進路に関する基本方針

臨床研修は広島県内の公的臨床研修病院で行います。

卒後3年目以降は広島大学各診療科への入局を原則とします。

中山間地の4年間は総合医を原則としますが、医療機関からの要望があれば専門科医として勤務します。

令和4(2022)年度ふるさと枠医師勤務状況(卒後3年目以上)



※中山間地域以外の医療機関

西城市民病院

神石高原町

神石高原町立病院

府中北市民病院

府中市民病院

尾道市

公立みつぎ総合病院

福山市

府中市湯が丘病院

庄原市

広島市民病院(広島市)、広島赤十字・原爆病院(広島市)、舟入市民病院(広島市)、広島大学病院(広島市)、県立広島病院(広島市)、広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院(広島市)、安佐市民病院(広島市)、安芸市民病院(広島市)、福山医療センター(福山市)、福山市民病院(福山市)、広島県立福山若草園(福山市)、中国労災病院(呉市)、呉医療センター(呉市)、済生会呉病院(呉市)、三原赤十字病院(三原市)、尾道市立市民病院(尾道市)、JA 尾道総合病院(尾道市)、済生会広島病院(坂町)、広島西医療センター(大竹市)、JA 廣島総合病院(廿日市市)、東広島医療センター(東広島市)、賀茂精神医療センター(東広島市)、県立安芸津病院(東広島市)、広島県立障害者リハビリテーションセンター医療センター(東広島市)、広島県立障害者療育支援センターわかば療育園(東広島市)

みなさんの学生生活を応援します!



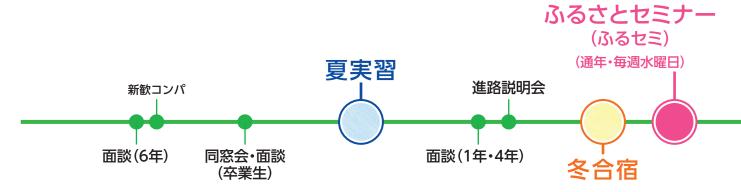
ふるさと枠は広島県の医療、特に医療に恵まれない中山間地域や医師不足の著しい分野 の医療を担うために設置された制度です。

当講座のミッションは、ふるさと枠の学生の皆さんが充実した学生生活を過ごせるように、また卒後の進路に夢を持てるようにすることです。広島大学在学中も卒業後も、皆さんの不安が起こらないように、一人一人の思いを聞きながら支援したいと考えています。

入学後から定期的にミーティングをしながら、たくさんの企画を準備しております。広 島県の地域医療を引っ張っていけるような人材に育っていただきたいと願っております。

地域医療システム学講座 教授 松本正俊

年間スケジュール











夏実習

令和3年度は コロナウイルス感染拡大防止の 観点により、夏実習は中止とし、 秋に病院見学ツアーを行いました

ふるさと枠の魅力の一つとして、地域医療について学ぶ機会が多く設けられているという点が挙げられます。 毎年8月に行われる夏実習では、実際に地域の方々の健康を守ることを使命に診療所で勤務されている先生方の姿を 見て、将来の理想像を明確にし、勉強に対するモチベーションを上げることができます。

来年度、皆さんとふるさと枠のメンバーとして同じ夢に向けて挑戦できるのを楽しみにしています!

医学科4年生 井上つぐみ

ふるさとセミナ-(ふるセミ)





ふるさと枠の学生は、週に一度、ふるさとセミナー(通称 "ふるセミ")に参加することになっています。そこでは、班に分かれて、先輩方が様々な企画を用意してくださいます。また、縦割りの班になっているので、多くの先輩と仲良くなれます。地域医療についてなどの知識を得ることができ、先輩方とも交流できるこのセミナーを、僕は毎週とても楽しみにしています。

ふるさと枠のメンバーは皆、優しくてステキな人ばかりです。みなさんも是非、ふるさと枠で共に高め合っていきましょう!

医学科4年生 本多晃嗣郎





春実習

追いコン

冬合宿

コロナウイルス 感染拡大防止の観点により 令和3年度はオンラインにて 行いました!





ふるさと枠の魅力はなんといっても地域医療実習や、ふるセミ(毎週水曜日に行われる昼食会)だと思います。地域 医療についての知識を深めることができ、さらに地域医療の行われている場所で実際の現場を知り、体験することが出来るというのは、将来のためにも、今の自分にとってもかけがえのない経験だと考えるからです。

地域医療実習のひとつである冬実習では、地域医療のススナー地川中の生生から、地域医療の周辺が開催の

現場で働く医師の方や、ふるさと枠出身の先生から、地域医療の現状や現場の様子などを伺うことができます。また、1年生から4年生までが参加する実習なので他学年のふるさと枠の人々と仲を深めることもできます。

このような貴重な体験が得られるのはふるさと枠ならではです!ぜひ、充実した有意義な学生生活をふるさと枠で送ってみませんか??

医学科5年生 谷菜穂



その他に・・・



○面談

(1年生、4年生、6年生) 学生1~2名と教員1~2名で学業の こと、大学生活やバイトのこと、 進路のことなどをお話します。

○進路説明会 (4年生、5年生)

> 臨床研修マッチング制度や臨床 研修後のキャリアプランについて お話します。



- ○同窓会・面談 卒業生が近況を報告しあいます。卒 業生と大学教員の面談も行います。
- ○新歓コンパ
- ○追いコン

ふるさと枠 学生の声



医学科6年生 伊藤大起

ふるさと枠の魅力の一つとして、夏季長期休暇中に行われる地域医療実習が 挙げられます。この実習ではふるさと枠の先輩後輩とともに地域の中核病院や 診療所に足を運び、地域医療を直接肌で感じることが出来ます。医療現場に赴 くことで日々の勉強のモチベーションが上がることは間違いありませんし、学年 を重ねるごとに知識も増え、より楽しい実習となるでしょう。現地の医師や医療 スタッフとの懇親会も行われ、おいしい食事をいただきながら地域医療現場の 牛の声を聞くことが出来るのもこの実習の利点です。

ふるさと枠の生徒は個性豊かな仲間たちばかりで、地域医療実習を含め、ふるさと枠の集まりは楽しみなものばかりとなっています。ぜひ一緒に実りある経験をしましょう!



医学科6年生 村上真央

私は、ふるさと枠で入学したことにより、縦のつながりが本当に広くなったと感じています。医学科は大学生活を送る上で、勉強をはじめ、やらなければいけない事が多くあり、なかなか学年を超えてのつながりを作る時間や機会が持てません。しかし、ふるさと枠では毎週ふるさとセミナーの際に、学年を超えて、お弁当を食べながら話をする機会が設けられています。ふるセミの場は、とても話しやすい雰囲気になっているため、上級生とでも気軽に話すことができます。この文章を読んでいる皆さんと来年の春、また新たなつながりが持てる事を、楽しみにしています!



医学科5年生 國吉遼大

ふるさと枠は将来広島県の地域医療を支えるという大きな目標を土台に、同級生だけでなく先輩や後輩達と世代を超えたつながりを持つことが出来ます。 そしてそのための夏、冬のセミナーなど行事も沢山あり、同じ目標に向かって 進む仲間を見つけることが出来ると思います。

先生方も大学生活だけでなく卒業してからの進路などについても相談に乗って下さり、本当に将来広島県の地域医療を担う医師となるためのサポートが充実していると思います。

将来広島県の地域医療を支えたい!という熱い思いのある皆さん。是非来年 のふるさと枠としての活動でお会いしましょう。お会い出来ることを楽しみにし ております。



医学科4年生 髙橋勁草

入学して感じたふるさと枠の魅力ひとつに「人とのつながり」があると思います。ふるさと枠では、毎週行われるセミナーや長期休暇中の地域医療実習で、さまざまな学年の人と交流できます。また実際に医療現場で活躍されている先生とも直接お話する機会もあります。大学生にとって、いろいろな人と交流して刺激を受けることは、自分の将来を考える上でもとても貴重な機会だと思います。ぜひふるさと枠で充実した大学生活を送りましょう!

医学科4年生 井上つぐみ

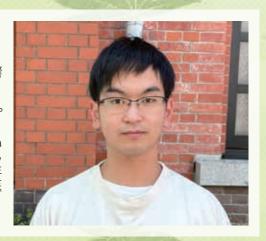
ふるさと枠の魅力の一つとして、地域医療について学ぶ機会が多く設けられているという点が挙げられます。私は瀬戸内海に浮かぶ離島に位置する、佐木島診療所と百島診療所で行われた1泊2日の地域医療実習に参加しました。どちらの診療所も同じ先生が担当されており、午前と午後でそれぞれの診療所で診療を行う日もあるため、時間短縮のために先生自らがドクターへりを操縦し、島と島とを行き来されていました。私は実際にドクターへりに同乗させていただきました。この実習を通して、地域住民の健康を守る医療従事者の熱意を感じました。地域医療を担う医師をめざす私にとってとても実りのある実習となりました。



医学科3年生 沼田義輝

私がふるさと枠の活動を通して得られたと感じるものに、「人とのつながり」が挙げられます。特に私たちが入学した時には世界は新型コロナウイルスの影響で、授業はもちろん、さまざまな制限が課せられていました。そんな中ではありましたが、入学開始時からオンラインで毎週ふるセミを開催してくださったり、長期休暇を利用してとても面白いテーマで、地域医療について考えるグループワークを開いてくださったりしました。

入学時心細かったですが、地域医療システム学講座の先生方や先輩方が開いてくださった交流の機会を通じて、確かな「つながり」を感じることができました。地域での医療活動に従事しておられる先輩方と、同級生はもちろん、他学年とも、他にもさまざまな機会が設けられており、こういった「つながり」は将来医師として働く上で重要なものになると感じています。志を同じくする皆さんと、「つながり」が持てる日を心待ちにしております。

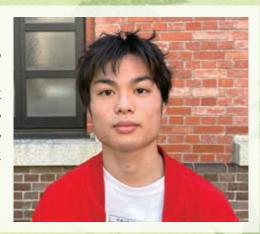


医学科2年生 成田楽人

こんにちは!皆さんはふるさと枠についてどのくらいの知識を持っておられるでしょうか。

このパンフレットを手に取り今読んでおられる方の中には熱心にふるさと枠について調べ本気で受験したいと思っておられる方も、進路選択の一つとしてふるさと枠を考えておられる方もいらっしゃるでしょう。ふるさと枠の良さの一つとして自分の将来や求められる場所を明確に思い浮かべることができる点があると思います。自分も広島大学のふるさと枠と地域医療への取り組みについて知り、具体的な進路をイメージすることができました。

皆さんとともに地域医療について考え、学べる日を楽しみに待っております。





ふるさと枠医師の育成に関わる先生方より



庄原赤十字病院は現在までに、14名(一期生から五期生まで、再赴任者を含む)のふるさと 枠出身の医師を受け入れています。そのほとんどの医師たちはこう言っています。「学生時代や初期研修医の頃には、自分自身のスキルやキャリアについて心配があった。」「今は医師としての力が日々進歩し、専門的な研修も十分にできているので毎日が楽しいし、不安もない。」

実際に彼らと一緒に仕事をして感じるのは、臨床医としての喜び・期待・さらに自己を高めたいという熱心さです。ふるさと枠であるということは、何らかの縛りではなく病院からさらに視野を広げていく、より前向きのツールとして作用しています。

充実した高いレベルの専門研修、いろいろな科の医師たちとの密度の濃い交流、そして臨床 医として最も大事な医療者としての基礎を学ぶ毎日。当院のふるさと枠出身者たちは、まさにそ の中で日々成長しています。

庄原赤十字病院 院長 中島浩一郎



ふるさと枠入学制度が始まり 14 年が経とうとしています。地域医療の現場の楽しさや仕事のやりがいを医学生や若い医師に伝えるべく、日々奮闘しています。

地域医療は、プライマリーケアそのものであり、各科を超えたさまざまな疾患の初期診療、救急医療、生活習慣病などの慢性期医療、終末期医療、高齢者医療、在宅医療、介護問題、地域連携などなど、その内容は多岐にわたり、医師として大変やりがいのある、魅力ある仕事です。医師としての根源的な喜びを味わうことのできる現場といってもいいかもしれません。また、地域医療はその地域を活性化する一躍を担ってもいます。「ふるさと枠」の仲間で地域医療をもっともっと楽しく、魅力あるものにしてゆきましょう。

神石高原町立病院 副院長 服部文子



大 学 後 1~6年生 1年 2年 5年 6年 7年 8年 広島· 広島大学医学部 県内の公的医療機関等(7年間)【義務期間内】※P7参照 初期臨床研修 対象となる医療機関の詳細は「推薦入試学生募集要項」に紹介あり 広島大学医学部 (2年間) うち、4年間は知事の指定する中山間地病院 ※P6参照 【県内指定機関】 ふるさと枠入学に関 する情報は広島大 又は知事が指定する診療科(病理診断科・産婦人科) 学医学部の教育に係 わる関係者に共有さ れます。 義務年限9年 卒業後12年間の猶予期間の中で、9年間の義務に従事することになります。初期臨床研修終了後、 希望により3年間まで県外での専門研修、留学、学術研究等を行う事が出来ます。(義務期間外)

「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」について

「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」は、卒業生の能力の向上や、目指す診療科の専門医認定が得られるように、勤務先やローテート方針等を定めた標準的な育成計画です。

卒業生は、必要従事期間が終了して奨学金の返還免除を受けるまでの間、このプランに沿って県内の地域医療に貢献しながら、併せて能力の向上を図ります。

《キャリアプランの概要》

1 ふるさと枠卒業医師の所属

卒業生は、初期臨床研修(2年間)修了時までに、次のコース(①~③)のいずれかを選択します。

	選	補足等					
А	広島大学病院 各診療科等所属コース	中山間地サブコース(①)	下記以外の診療科(26診療科※1) (診療科毎の標準的なプランを用意)				
		知事指定診療科サブコース(②)	病理診断科・産婦人科(標準的なプランを用意)				
В	地域専攻コース ※個別の診療科への所属を 希望しない方	中山間地サブコース(③)	「広島大学地域医療システム学講座」及び 「広島県地域医療支援センター」がサポート して具体プランを作成				

- 2 中山間地域等指定機関での勤務について(配置ガイドライン)
 - ●中山間地域等指定機関を『中堅病院』 (4機関)と『中小病院』 (8機関)に分類※2 (P.7表参照)し、中山間地域での4年間の勤務のうち、『中小病院』には、原則2年、少なくとも1年以上は、常勤として勤務します。(知事指定診療科サブコース(②)選択者は除く。)
 - ●中山間地域での勤務は、総合医(総合診療医・一般内科医・一般外科医)としての勤務を原則としますが、中山間地域等指定機関から要望がある場合は、専門科医として勤務します。

【例】広島大学病院・中山間地サブコース(①) 「総合診療科」標準的キャリアプラン

卒後年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤務先等	初期臨床(県内指		大学病院	中山間地の中堅病院内科・総合診療科勤務の	中山間地の中小病院中山間地の中小病院内科・総合診療科勤務の決定を	大学病院 総合診療専門医試験 度 総合診療専門医試験 度 は	中山間地の中堅病院 内科・総合診療科勤務 劇	中山間地の中小病院 内科専門医試験(希望者) 内科・総合診療科勤務	関連病院(指定機関) 内科・総合診療科勤務	【必要従事期間終了】		

(注)中山間地サブコース①の診療科の構成(※1)や、中山間地域等指定機関の分類(※2)は、後年において変更となる場合があります。



「広島県医師育成奨学金」について(概要)

(広島県健康福祉局医療介護基盤課)

- 広島大学医学部ふるさと枠へ入学された方は、大学在学中の6年間に、広島県から「広島県医師育成奨学金」の貸与を受けることとなります。
- 大学卒業後から一定の期間、県内の地域医療を守るための指定医療機関での勤務を行っていただくことで、奨学金の返還は全額免除となります。
- 県内での勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」に沿って行っていただきます。
- ◆貸付額◆ 月額20万円(6年間の総額:1,440万円)
 - ※奨学金の貸付けには、貸付日の翌日から、貸付期間の終了月の末日(6学年の3月末日)までの日数に応じて、民法で規定する法定利率で計算した利息が付きます。(R4.4月現在の法定利率:年3%)
- ◆貸与期間◆ 6年間(大学の通常の修業年限(通算6年間)を超えることはできません)
- ◆返還免除◆ 大学医学部の卒業後から12年間(貸付期間の2倍に相当する「返還猶予期間」)までに、別に定める基準(キャリアプラン)に沿って、次の要件1・2を共に満たすことで、奨学金(利息を含む。)の返還が、全額免除されます。

【要件1】

貸付期間の 1.5 倍に相当する 9 年間 (必要従事期間) を、知事が指定する広島県内の公的医療機関等**1 において医師の業務に従事する。

【要件2】

上記9年間(必要従事期間)のうち、4年間(広島大学病院等県内での初期臨床研修2年間を除く)を、次の①・②のいずれかで従事する。

- ①知事が指定する県内の中山間地域等の公的医療機関*2
- ②公的医療機関等の知事が指定する診療科 (病理診断科・産婦人科*3)

※1、※2、※3 については、今後、規則改正等により変更となる場合があります。

≪上記の要件を整理すると、次のとおりです。≫

- ◎貸付期間:6年間
- ◎返還猶予期間(免除要件の履行期限):卒業後12年間
- ◎必要従事期間(9年間): 県内初期臨床研修(2年)+県内公的医療機関(7年、うち①又は②が4年)

卒年後	-	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
勤 務 等	(6学年)	初期臨 (<u>2</u> 【県内指	年)		その	554年間	は、中山間	で、 <u>7年</u> 間 引地域等の 具外研修や	指定機関	(又は指定	診療科)で	勤務	

※卒業後の県内勤務は、「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」に沿って行います。

◆その他◆ ※出産・育児等による勤務中断の取扱い

出産・育児(又は家族介護)を理由として、指定医療機関での勤務を一時中断(休業・離職等)した場合は、本人の希望に応じて、当該中断等した期間を返還猶予期間に追加(猶予を延長)することができます。



Q & A

Q 広島大学ふるさと枠の学生は、他の学生と違う学部教育を受けるのですか。

A 全ての授業・実習から、地域医療実習を含む臨床実習に至るまで、全く同じ内容を学習します。それとは別に、ふるさと枠学生を対象としたプログラムがあり、定期的なミーティングや休暇中のセミナーなどを実施します。ふるさと枠学生に対しては、在学中に積極的に国内外での見聞きを広め、クラスを引っ張っていく存在になれるよう、指導致します。

○ 広島大学ふるさと枠の卒業生は、自分の行きたい「科」を選ぶことが出来るのですか?

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」に記載してある返還免除の条件2の①には、自分が将来目指す「科」について、特に制限は書かれていません。ただし、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますので、研修中は、原則として総合医としての修練が必要です。これらの総合医としての経験は、その後総合医としてキャリアを歩む場合はもちろん、専門医を目指す場合も本人の一生の財産となります。

○ 広島大学ふるさと枠の卒業生は、いわゆる「専門医」を目指すことは出来るのですか?

A 「広島県医師育成奨学金制度の概要」の返還免除の条件2の②に「知事が指定する診療科」という文言があります。これはまさに「専門医」に該当します。つまり県が「深刻な医師不足」と判断した科であれば、その科を選択することができ、その場合、勤務地は中山間地に限定されません(現在は病理診断科と産婦人科が指定されています)。次に「知事が指定する診療科」に行かない場合、中山間地域勤務期間は原則として総合医として勤務しますが、中山間地域勤務期間終了後、専門医を目指し始めることは問題ありません。また中山間地域勤務期間中も、広島大学の地域医療システム学講座と連絡をとりつつ、目指す専門医に関わる広島大学の診療科に所属し、将来の専門医取得に向けて準備を始めることが出来ます。ほぼすべての診療科がふるさと枠卒業生のためのキャリアプランを用意しています。

Q 9年間は、先進的な医療技術の勉強ができないのではないですか?

A そのような心配を聞きますが、大丈夫です。まず、「総合医」を目指す場合、広島大学の地域医療システム学講座・総合診療科をはじめとした全診療科・卒後臨床研修センター、県立広島病院を中心とする県内の公的医療機関等が支援し、最先端の「総合医」を育成します。次に「専門医」を目指す場合、広島大学の診療科が中心となって全面的にバックアップします。今後、情報回線を利用したテレ・メディスンも発達し、その活動を支えます。この「ふるさと枠」は、私たち納税者・県民によって支えられる制度であり、総合医であれ専門医であれ、広島で活躍する優秀な医師を輩出することを目標と考えています。

Q 予想されるコースについて実例を挙げていただけますか?

▲ 例えば、「初期臨床研修(県の指定医療機関)2年間」→「県内の公的病院3年間」→「県の指定する中山間地域等の公的医療機関等4年間」といったコースが実例として挙げられます。すなわち一般医学科生と大きな違いはないのです。

入試情報

医学部医学科推薦入試「ふるさと枠」に関する入試情報は、広島大学のホームページをご覧下さい。 https://www.hiroshima-u.ac.jp/nyushi



広島大学

入試に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当:広島大学霞地区運営支援部学生支援グループ(医学部担当)

電話:082-257-5049

その他ふるさと枠全般に関するお問い合わせ

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

担当:広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座

電話:082-257-5894

http://cbms.hiroshima-u.ac.jp/index.html

広島大学地域医療システム学講座 Q



奨学金制度に関するお問い合わせ

〒730-8511 広島市中区基町10-52 担当:広島県健康福祉局医療介護人材課

電話:082-513-3062



広島県医師育成奨学金



